

やまがた森林ノミクスとは

県土の約7割を占める森林は、木材の生産や水資源の  
かん養はもとより、災害の防止や地球温暖化防止など、  
人々の暮らしに欠かせない多様な役割を担っています。

こうした豊かな森林資源を「森のエネルギー」、「森  
の恵み」として余すところなく活用する「緑の循環シ  
ステム」を構築し、森林の多面的機能を高度に発揮させ、  
地域に根ざした

や雇用創出な  
ど地域全体の  
活性化につな  
げていく取組  
みです。

やまがた森林ノミクス



◆ これまでの経緯 ◆

1 地域資源を活用したエネルギーへの転換

東日本大震災を契機として、化石燃料から木質バイオマスへの転換  
など、エネルギー政策を大きく舵を切り、身近な森林資源等を有効活  
用し、地方創生につなげる取組をスタート

2 「やまがた森林ノミクス」宣言

やまがた里山サミットを開催し、知事が県内の全市町村長の賛同を  
得て、地域の豊かな森林資源を「森のエネルギー」、「森の恵み」と  
して活かしていく「やまがた森林ノミクス」を宣言(平成25年11月)

3 「やまがた森林ノミクス推進条例(通称)」の制定

県民の総参加による森林資源の活用を推進することにより、林業及  
び木材産業の振興並びに森林の保全を図り、雇用を創出し、地域を活  
性化することを目的とした条例(「山形県の豊かな森林資源を活用した  
地域活性化条例」)を制定(平成28年12月)

4 「ゼロカーボンやまがた2050」宣言

令和2年7月豪雨による最上川の氾濫など、地球温暖化の影響と考  
えられる異常気象に伴う災害の頻発を受け、2050年までに脱炭素社会  
の実現(温室効果ガスの排出量と吸収源による除去量の均衡)を目指  
す「ゼロカーボンやまがた2050」を宣言(令和2年8月)

◆ これまでの主な取組と成果 ◆

川上の取組

- ・森林GISに代わり、森林情報を効率的に共有でき  
る森林クラウドシステムの運用を開始(R1~)
- ・高性能林業機械の導入を促進するため、購入補助  
に加え短期レンタル(R1~)を支援
- ・「伐ったら植える」を合言葉に再造林率100%を  
目指し、再造林経費の100%補助を実施(H29は  
県が嵩上げ分を負担、H30から山形県再造林推進  
機構の基金と一体的に支援)

川中・川下の取組

- ・大規模集成材工場(H29稼働)や大径材加工施設  
など、加工流通施設の整備等を支援
- ・製材工場のJAS認証取得を支援(H29~)
- ・県産木材を使用した木造住宅の新築やリフォーム  
を支援(補助・利子補給を選択可)
- ・公共・民間建築物の木材利用に向け、県庁ロビー  
の木質化(R1)や県園芸農業研究所の木造建築  
(R2)のほか、空港等の内装木質化を支援

総合的な取組

- ・「県立農林大学校」に林業経営学科を設置(H28)  
し、林業現場の即戦力の人材を育成
- ・木質ペレットストーブ等の導入による県内のCO<sub>2</sub>削  
減量をJ-クレジットとして「見える化」し、都市圏  
企業に売却して得た収益を環境保全等の取組みに活用  
(H29~)



大型集成材工場



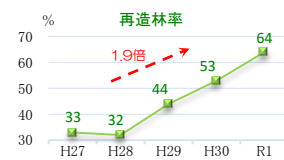
県庁ロビーの木質化



山形式フェンス



積木の配布



やまがた森林ノミクス加速化ビジョン  
~ 第3次山形県森林整備長期計画 ~

「やまがた森林ノミクス推進条例」に即し、  
社会情勢の変化に対応した本県の森林・林業・  
木材産業の将来の目指す姿と方向性を明らかに  
した10年間(R3~12)の計画を策定(令和3年3  
月)

〈目標指標 R1 ⇒ R12〉

- ・木材生産量: 54 → 90万m³
- ・再造林率: 64 → 100%
- ・労働生産性: 6.2 → 10m³/人日
- ・JAS製品出荷量: 7.8 → 12万m³



◆ 令和3年度の主な取組 ◆

I スマート林業による森林情報の高度化・共有化

- ・レーザスキャナを活用した森林・地形情報  
の精度向上、造林事業  
でのリモートセンシング  
技術の実証
- ・クラウドシステムへの  
森林情報の集積



スマート林業の推進

II 森林の適正な管理に向けた体制整備

- ・森林経営管理制度を推進する市町村への支援等

III 再造林の推進

- ・伐採と植栽の事業者間連携  
による森林所有者への働き  
かけを推進



再造林の推進

IV 公共・民間施設の木造化・木質化の推進

- ・公共施設建築に係る県産材  
供給体制(構造材バンク)  
構築の支援
- ・住宅・民間建築物の建築  
支援
- ・木造建築設計者育成支援



木造の園芸農業研究所

V 県産木材の活用促進

- ・身近な日用品(食器等)  
の木製化を推進



食器の木質化